

せら高原の取り組み

いね

せらは昔から米どころとして有名です。分水嶺の良質な水と昼夜の温度差、豊かな陽ざしによっておいしいお米になるのです。



くわしくはこちらで！

むぎ

せらでは六条大麦を主に栽培しています。凍害にも強く、収穫期が梅雨前であるなど、せらの環境に適しています。



だいず

せらは良質の大豆の産地としても知られています。2年3作では麦を栽培することでより良い豆が育ちます。



こぼれ話し 麦畑とヒバリ・キジ

ヒバリやキジは麦畑など草地に巣を作ります。昔は「麦畑に雲雀（ヒバリ）」と言われていましたが、麦畑が減少した昨今あまり見かけなくなりました。



ヒバリやキジが巣を作り始めます

春です。麦は一気に草丈を伸ばし始めます

こぼれ話し 冬の田んぼと春の七草

七草がゆでおなじみの春の七草も、冬の田んぼで育っています。最近では、稲刈りの後すぐに耕す田んぼが増えたので、なかなか見られなくなった種類もあります。



ハハコグサ(4~6月)

せり=芹
なずな=べんべん草
ごぎょう=母子草(写真)
はこべら=ハコベ
ほとけのざ=コオノチビラコ
すずな=カブ
すずしる=大根



麦ふみ：根張りを良くし、麦を硬化させ、分けつを促進する効果があります



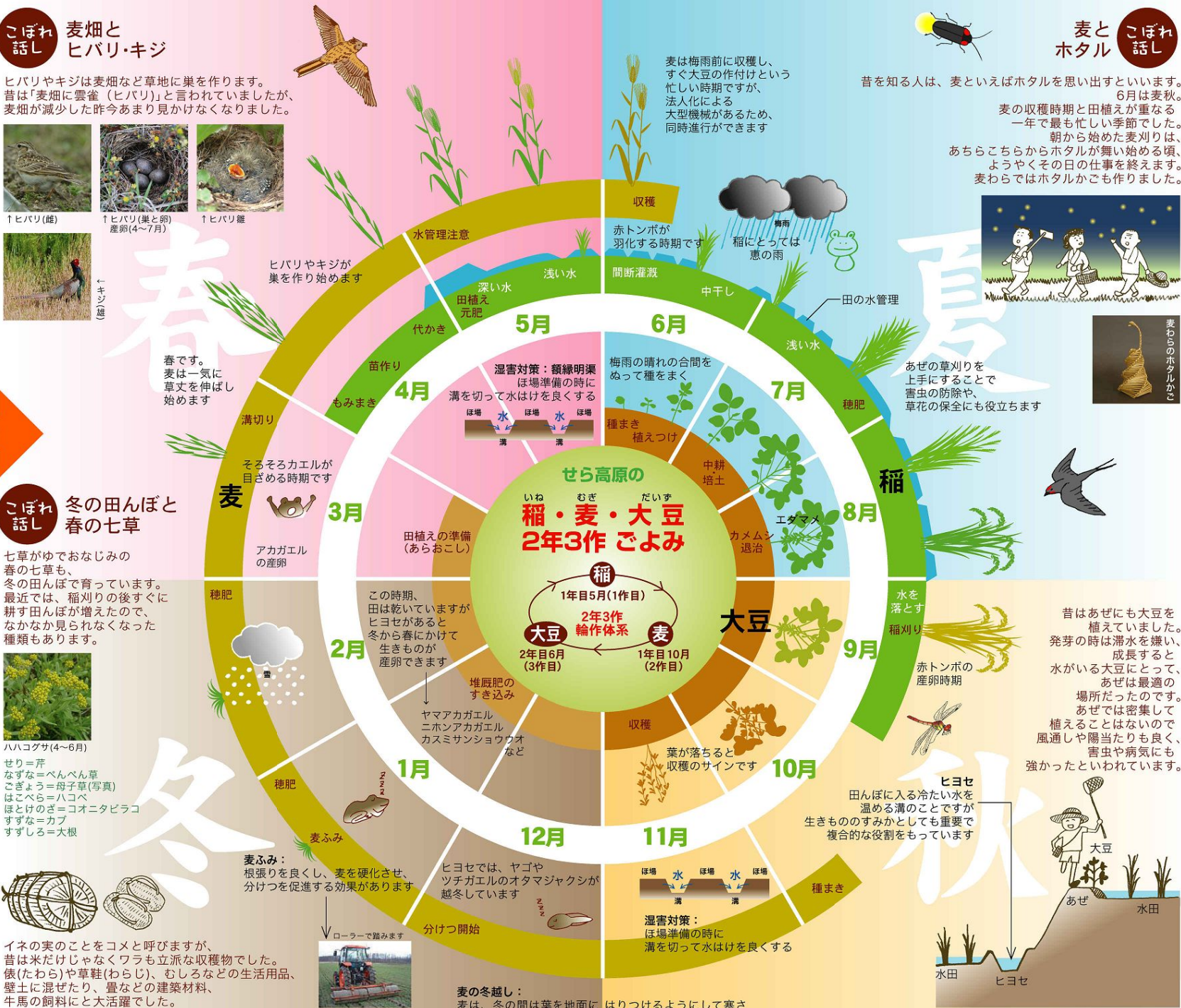
ローラーで踏みます

こぼれ話し コメだけじゃないイネづくり

イネの実のことをコメと呼びますが、昔は米だけじゃなくワラも立派な収穫物でした。壁(たわら)や草鞋(わらじ)、むしろなどの生活用品、壁土に混ぜたり、畳などの建築材料、牛馬の飼料にと大活躍でした。

麦の冬越し：麦は、冬の間は葉を地面に避け、暖かい春になると実をつけます。植物が冬と春の七草なども同じような

せら高原の稲・麦・大豆 2年3作 ごよみ



麦とこぼれ話し ホタル

昔を知る人は、麦といえばホタルを思い出すといます。6月は麦秋。麦の収穫時期と田植えが重なる一年で最も忙しい季節でした。朝から始めた麦刈りは、あちこちからホタルが舞い始める頃、ようやくその日の仕事を終えます。麦わらではホタルかごも作りました。

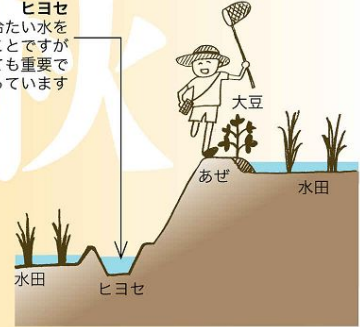


麦わらのホタルかご



ヒヨセ

昔はあぜにも大豆を植えていました。発芽の時は滞水を嫌い、成長すると水がある大豆にとって、あぜは最適な場所だったのです。あぜでは密集して植えることはないで風通しや陽当たりも良く、害虫や病気にも強かったといわれています。



あぜ豆 こぼれ話し

田んぼヒヨセ	あぜ
クサガメ (3~9月)	ムラサキサギゴケ (4~5月)
ゲンゴロウ (4~7月)	オヘビイチゴ (4~5月)
モートソイトンボ (4~9月)	スミレ (4~5月)
ヘイケホタル (6月)	ヒョウモンモドキ(6月)
ヤマアカガエル (2~6月)	ノアザミ (5~9月)
シュレーゲルアオガエル (4~6月)	ミソハギ (7~8月)
トノサマガエル (4~10月)	オミナエシ (8~9月)
ダルマガエル (4~10月)	ハギ (8~9月)
ツチガエル (4~10月)	ヒガンバナ (9月)
カスミサンショウウオ幼生 (4~6月)	キキョウ (7~8月)
	リンドウ (11月)

くわしくは「せら高原のこだわり米ガイドブック」を参照ください 保全のポイントなどが載っています